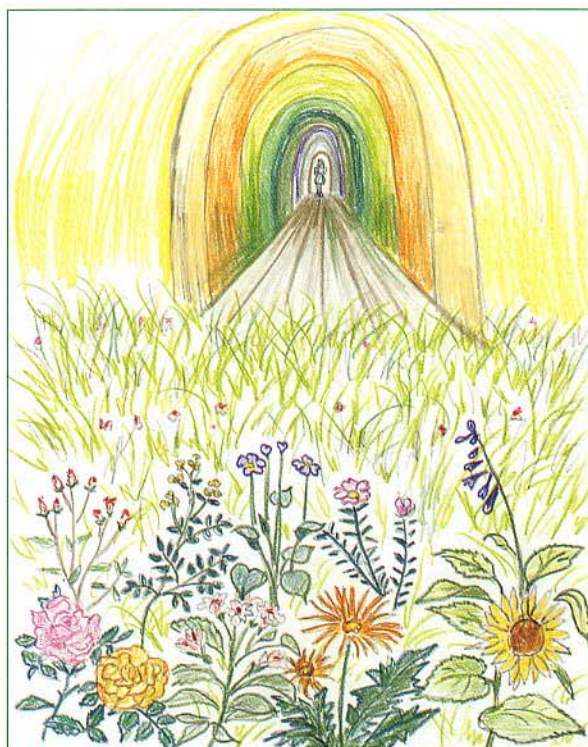


# ラスト・アイデンティティ

— 『人生の出口』 調査 —



「死後の世界」 (60歳女性)

死後の世界にわ、何かわからないけれど、何かがあるのでわないか。何かがあると信じたい。

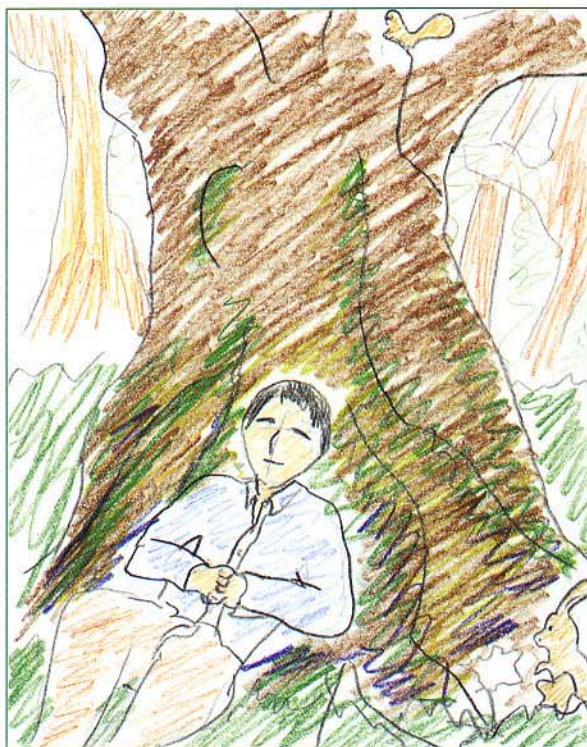
(原文のまま・以下同様)

「理想の人生最後のシーン」 (22歳男性)

樹の根におっかかり、幸せだった時をふり返りながら、わずかな間の痛みの後、微笑して死ぬ。

(そのまま土にかえる。)

「自分らしさ」にこだわって生きる時代です。だからこそ、これからは、「自分らしく死ぬこと」にこだわる時代になるのではないのでしょうか。いいかえれば、「最後まで自分らしく生きること」。今回は、「死」の周辺のさまざまな想いを集めてみました



「人生の出口調査」94年5月実施

首都圏18～69歳までの男女351人(男性134人、女性217人)郵送法

\*なお、以下の頁で紹介するデータは、首都圏の男女構成比でウエイトバックしたものです。

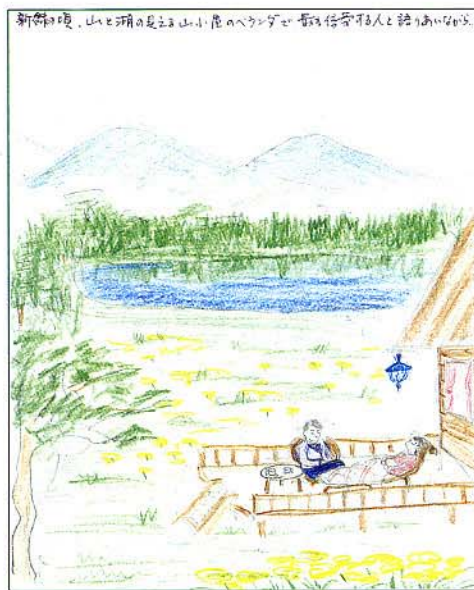
## まず、率直なところ、 あなたは「死ぬこと」が怖いですか。 それは、なぜですか？

■死ぬことが怖いという人は、全体で7割。性別では女性に多く、年代別では、30～40代で最も多くなっています。■怖いという理由を見ると、第1に挙げられるのは、やりたいことがまだある、家族が心配といった「この世への未練」です。第2には、「自分が無になることへの不安。未知の世界への不安」があります。「死ぬとはどういうことかわからないから。無の恐怖」(30歳・男性)といった言葉がその思いを代表しています。そして、第3に、「死に至るまでの苦痛に対する恐怖」があります。■逆に「怖くない」という理由としては、第1に、「死は自然の摂理」という考え方があります。第2に、「長く生きることには執着はない」というもの。第3に、「命の長さは生まれたときに決まっている」(20歳・男性)というように「死は運命」という考え方があります。■図にあるように、「人は死んでも全てが終わるわけではない」と考える“コンティニュー派”の人の場合は、「死んでしまえば全てが終り」と考える“ジ・エンド派”の人に比べて、死に対する恐怖感が低くなっていることがわかります。

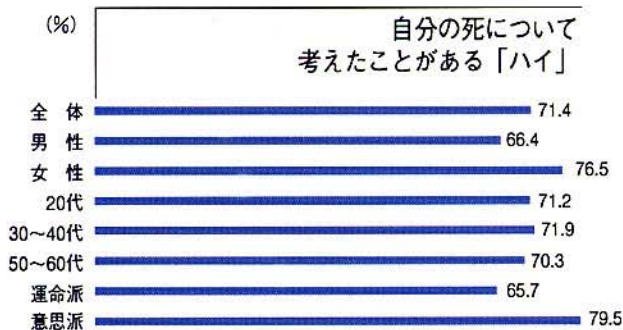


\*「ジ・エンド派」とは、「人は死んでしまえば全てが終わる」と答えた人  
「コンティニュー派」とは、「人は死んでも全てが終わるわけではない」と答えた人

「理想の人生最後のシーン」(54歳女性)  
新緑の頃、山と湖の見える山小屋の  
ベランダで、最も信愛する人と  
語りあいながら…



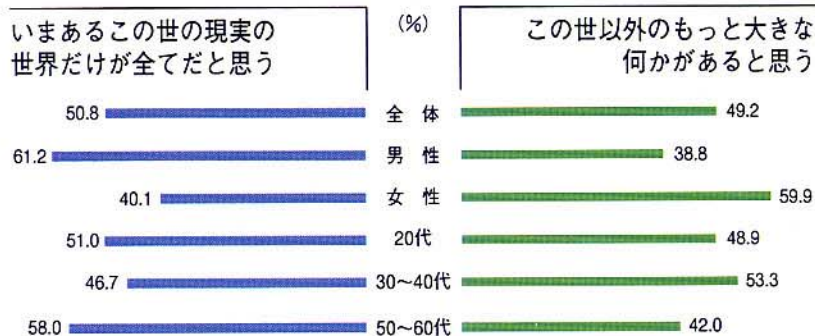
## あなたは、これまでに、 自分の死について考えたことがありますか。 それは、どのようなときですか？



\*「運命派」とは、「人生の幕切れは運命のままにまかせたい」と答えた人  
「意思派」とは、「人生の幕切れに際して自分の意思を持ちたい」と答えた人

■自分の死について考えたことがあるという人も全体の約7割。女性の方が男性よりも10%ほど多くなっていますが、年代による差はほとんどありません。■どのようなときに考えたか、という内容を見ると、第1に身近な人の死に接したとき、があります。第2は、通り魔や飛行機事故などのニュースを見聞きしたり、本や映画をみたりという情報接触によるもの。第3に、実際に飛行機に乗るときや危ないことをするとき。第4に自分が健康を害したときや、ガンではないかと思ったとき、があります。■図にあるように「人生の幕切れに際して自分の意思を持ちたい」という“意思派”の人は8割近くが自分の死について考えたことがあると答えているのに対して、「運命のままにまかせたい」という“運命派”の場合は考えたことのある人の割合は約66%にとどまっています。■ちなみに、今後、「死」について、もっと考えたり語ったりしたいという人は全体の52.6%です。性差はほとんどありませんが、年代による差は大きく、20代では63.7%、30～40代で44.3%、50～60代では40.6%に下がってしまいます。年代によって、死のリアリティが違う、ということでしょうか。

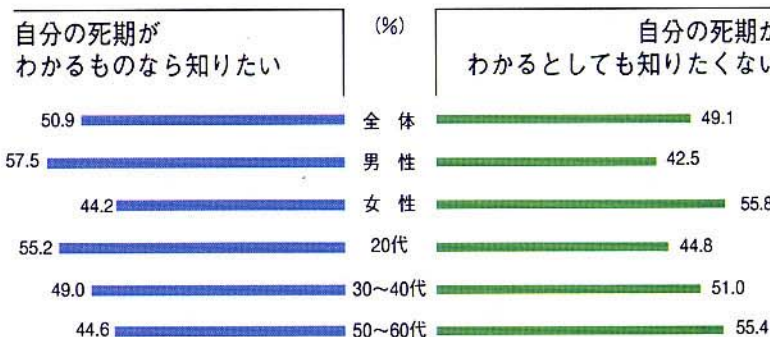
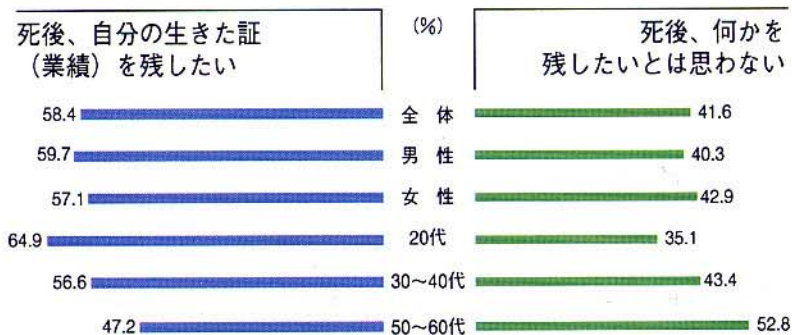
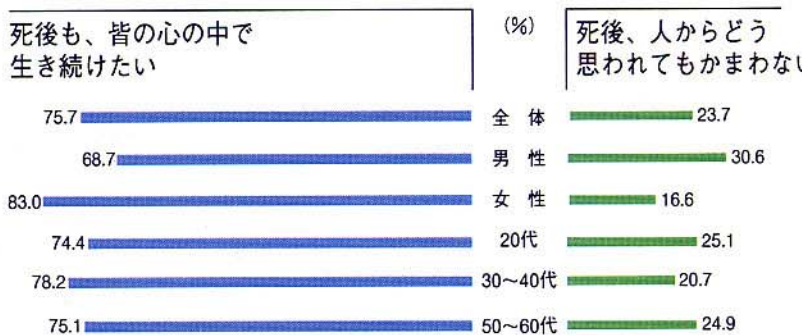
## あなたの死生観は それぞれのどちらに近いですか？



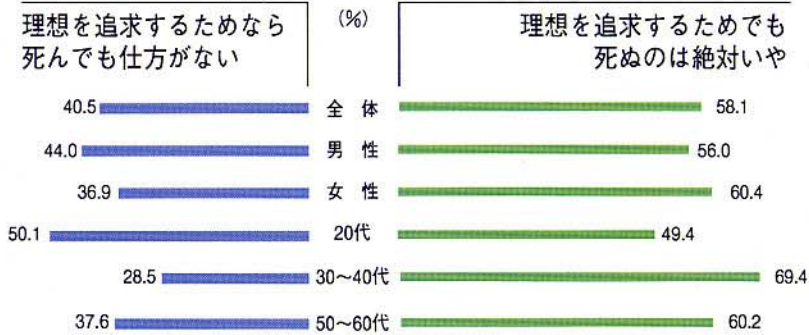
■男性の現実主義は、次のような項目にも現れました。「死後も、皆の心の中で生き残りたい」は女性は83.0%、男性は68.7%とかなりの開きがあります。男性の3割は、「死後、人からどう思われてもかまわない」と思っているのです。■一方、「死後、自分の生きた証(業績)を残したい」という思いは、男性の方が若干強いようです。ただし、これに関しては、年代による差の方が大きく、20代の64.9%に対して、50~60代では47.2%と5割を切る数字になっています。年が増すことで、「生の証掘づくり」への欲が薄れてくるということなのでしょう。

■「自分の死期がわかるものなら知りたい」という人は2人に1人。男性の方が高くなっているのは、現実の世界でケリをつけなければならないことを多く持っているから、という見方もできます。また、年代の高い層ほど「自分の死期がわかるとしても知りたくない」という人が多いのは、やはり死というものがリアリティを持って迫ってくるからなのでしょう。■ちなみに「運命派」か、「意思派」かということで言えば、全体では58.9%が「運命派」です。女性の方が「意思派」が多い(男性35.8%、女性46.1%)という傾向は、後述の「リビング・ウィル」や「ホスピス」への同意度にも現れてきます。また、「意思派」は、20代47.6%、30~40代37.1%、50~60代32.0%という具合に、高年代ほど少なくなっています。

■まず、「いまあるこの世の現実の世界だけが全てだと思うか、この世以外のもっと大きな何かがあると思うか」をみると、全体ではちょうど半々に分かれます。しかし男性と女性ではかなり傾向が違い、男性では前者が、女性では後者がそれぞれ約6割を占めています。■同様の傾向は「ジ・エンド派」vs「コンティニュー派」でも見られます。男性は58.2%が「ジ・エンド派」、女性は58.1%が「コンティニュー派」です。この世とあの世の話に関しては、女性のほうがロマンチストということなのでしょう。



### 理想を追求するためなら死んでも仕方がない

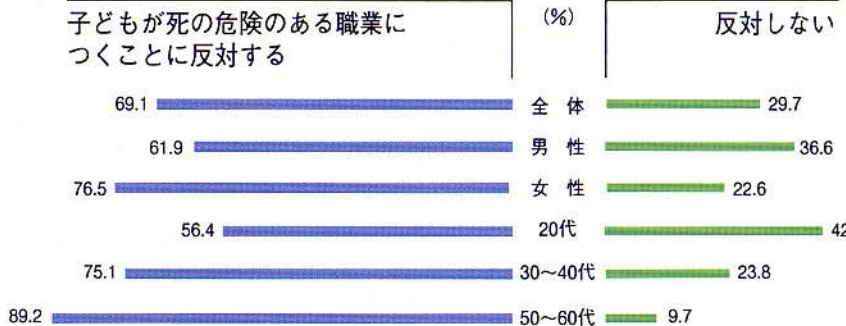


■さて、子供が死の危険のある職業につきたいといったらどうか。これに対しては7割の人が「反対する」と答えています。特に女性は76.5%と男性よりも15%も高い数字になっています。また、年代別では、50~60代ではなんと9割の人が「反対する」と答えています。■また、子供が死の危険のあるボランティアをしたいといったらどうか、という項目に対してもほぼ同様の傾向がみられます。ただし、男性では、職業選択のときより反対する人の割合が高くなっているのが特徴です。(男性の反対者は67.2%、女性の反対者は76.0%)

### 理想を追求するためでも死ぬのは絶対いや

■「理想を追求するためなら死んでも仕方がない」と考える人は全体の約4割。男性に多く、年代別では20代が約5割と、他の年代を大きく引き離しています。逆に「理想を追求するためでも死ぬのは絶対いや」という人は30~40代では約7割に達します。現実のライフステージを考えれば、当然の結果というべきなのでしょう。■ちなみに、「会社から死の危険のある国への赴任を命令されたらどうするか」という質問に対して、赴任すると答えた割合は、20代14.3%、30~40代14.6%、50~60代29.0%と、年代の高い人ほど「赴任する」という選択をしています。

### 子どもが死の危険のある職業につくことに反対する



「死後の世界」(42歳女性)  
 ……「死」は『灰』色、  
 「死後の世界」は『ピンク』色



## 「死」という言葉で連想する色は何色ですか? 「死後の世界」という言葉ではどうですか?

■「死」という言葉で連想される色のトップは『黒』。「死後の世界」でイメージされる色のトップは『白』。「死後の世界」では『黒』は第4位まで落ち、『無色透明』が2位になっています。『無色透明』とは、まさに“無”のイメージからきているのでしょうか。■「死に対する恐怖感のある人」と「ない人」に分けて比べてみると、「恐怖感なし」の人では、「死」も「死後の世界」もトップの色は『白』であること、また、「死後の世界」の4位に『ピンク』が入っていることが注目されます。

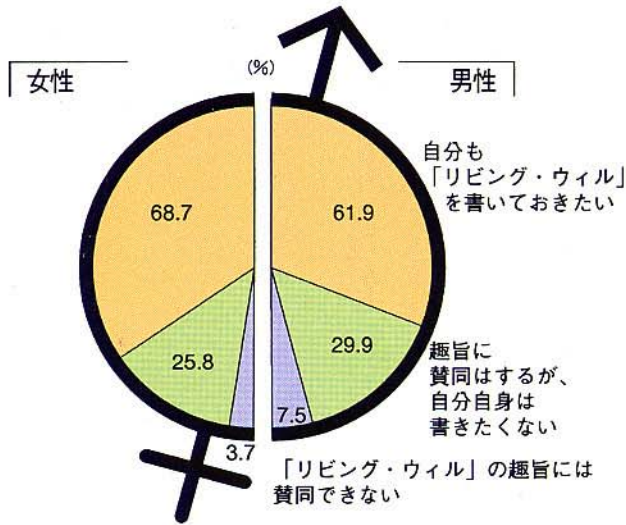
### ● 「死」という言葉で連想する色 \*表はOA集計：%

全体	死への恐怖感がある人	死への恐怖感がない人
黒 37.4	黒 41.3	白 29.2
白 25.4	グレー 24.7	黒 27.9
グレー 25.1	白 23.8	グレー 26.1
無色透明 4.5	無色透明 3.4	無色透明 7.0
青系 2.4	青系 3.4	ハステルブルー 3.6

### ● 「死後の世界」という言葉で連想する色

全体	死への恐怖感がある人	死への恐怖感がない人
白 26.9	白 29.3	白 21.1
無色透明 13.2	グレー 15.3	無色透明 17.4
グレー 12.9	無色透明 11.5	黒 14.8
黒 12.2	黒 11.2	ピンク 7.8
青系 5.3	ハステルブルー 5.4	グレー 7.0

## Q 「リビング・ウィル」について どう思いますか？



\*「リビング・ウィル」とは、書いた本人が存命中に効力を持つ「生きた遺言書」のこと。植物状態などで意志表示できない場合に延命を拒否するという担当の医師に伝えるため、心身ともに健康なときに文章で表明しておくものです。

■リビング・ウィルについては、男性の6割強、女性の7割弱が「自分も書いておきたい」という選択をしています。

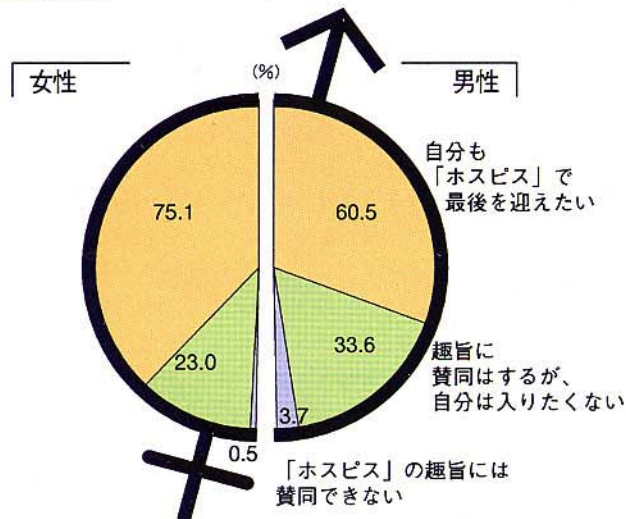
●「生きる権利」のひとつとして「死ぬ権利」も基本的な権利のひとつだと考えるから(22歳男性) ●植物状態をむりやり続けてもまわりの人がつらいだけだと思う(21歳女性) ●私の意思を伝えておけば家族に迷いをもたらすことはない(55歳女性) ●呼吸器をつけられ、半裸で生かされている人を見たから(59歳女性)

■ところで、「自分の意識がない(尊厳を保てない)状態になったら、生きてたくない」という人は93.8%もいます。しかし、実際にその意思表示をするか、となると話は別なのです。約3割弱の人が「リビング・ウィルの趣旨には賛同するが自分自身は書きたくない」という選択をしたことが、それを物語っています。

●生きることを自分で破棄するのはいやだ(39歳男性) ●そこまで決断しきれない(61歳男性) ●私には88歳の母がおります。賛同はしますが書くことは出来ません(63歳女性)

■ちなみに自分の配偶者の終末に際して、「過度な延命治療はしてほしくない」という人は全体の69.0%(男性64.9%、女性73.3%)、「少しでも長く生きさせて欲しい」という人は全体の31.0%(男性35.1%、女性26.7%)でした。

## Q 「ホスピス」についてどう思いますか？



\*「ホスピス」とは、「人間がその人らしく生を全うすることを援助するプログラム」。ここでは、死期の遠くない末期患者のため、延命治療よりも苦痛をやわらげることに重点をおき、食事や面会などを自由にし、慰安の工夫を凝らした施設のこと、と考えてください。

■ホスピスのようなところで最後を迎えたいという人は、男性よりも女性の方に多くなっています。もちろん多くの人が「自分らしく死にたいから」という理由をつけています。■ホスピスに関しても、男性では「趣旨には賛同するが自分が入りたくない」という人が3人に1人の割合でいます。その理由としては、自宅で家族に見守られて死にたいというものが多のですが、以下のようなものもありました。

●日本では、外国のように宗教など頼るものがないから、考える余地があると思う(26歳男性) ●100%死ぬとわかっているならそれもいいかもしれないが、1%でも可能性があるのなら闘うべきだと思う(23歳男性) ●そういうことに使うお金があったら、もっと別のことに使いたい(22歳男性)

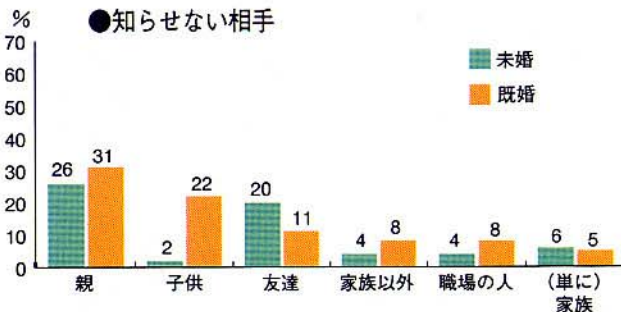
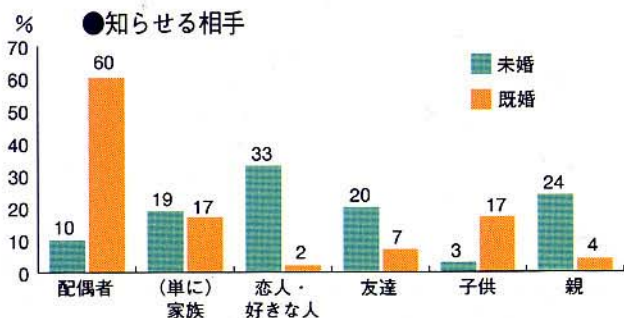
ある日、運命の神様から、次のようなお告げを受けたとします。

「お前のこの世での命はあと1年である。その間は、今と同じ健康状態であることができる。この世との別離のために3000万円を用意した。

これは自由に使ってよい。そして、この世最後の日に、ひとつだけ、どんな無理な注文でも聞いてやることにしよう。」

## SQ 自分の命が1年限りであることを知らせる相手は誰ですか？ 逆に知らせない相手はだれですか？

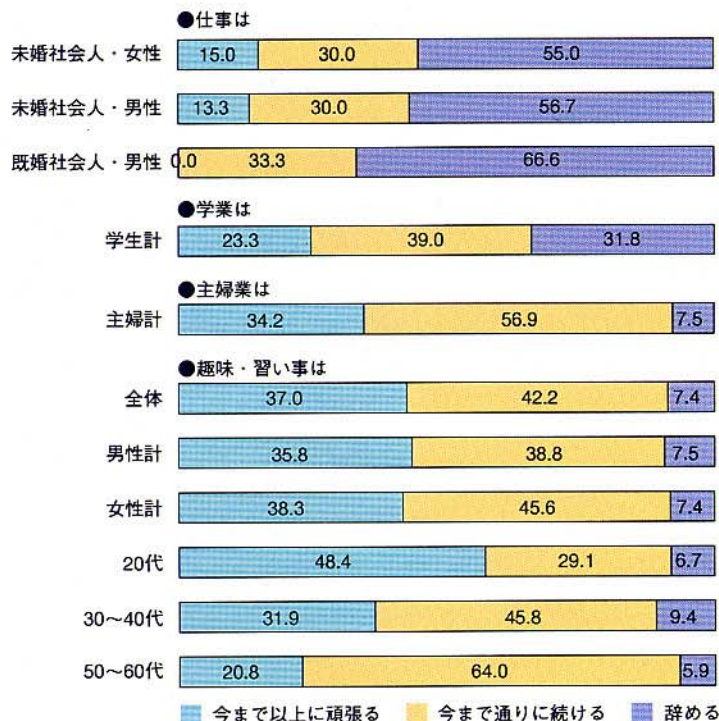
\*グラフはOA集計



■自分の命が1年限りであることを知らせる相手は、未婚か既婚かによって大きな違いがあります。知らせる相手のトップは未婚者では恋人であり、既婚者では配偶者です。どちらも一番自分の支えとなってくれる存在として、一緒に1年を過ごしてほしいからという理由です。

■また逆に知らせない相手は、未既婚ともに親が一番です。先立つことは親不幸だから、親のショックははかりしれないから、というのがその理由です。友達や職場の人に対して知らせないのは、それで態度が変わってしまうのがいやだから、という理由です。

## SQ 今、なさっていることはどうしますか？



■もし、あと1年の寿命といわれたら、今、かかっていることはどうするでしょうか。それぞれ該当する人に答えてもらいました。■まず「仕事」は、辞めるという人が半数以上です。既婚男性に至っては3人に2人が辞めてしまうと答えています。■「学業」については、今まで通り続けるという人が約4割と最も多くなっています。ただし、学生男子は辞めるという人が一番多く(38.5%)、今まで以上に頑張るとい人は2割以下です。一方、学生女子は、辞めるという人(22.6%)よりも、今まで以上に頑張る人(29.0%)が多いというように、男子と女子では対照的な結果になっています。■「主婦業」は、今まで通り続けるという人が多く、今まで以上に頑張るとい人も3割以上います。特に、30代主婦では4割以上が今まで以上に頑張ると答えています。■「趣味・習いごと」は、辞めるという人は1割をきっています。20代では今まで以上に頑張る人が約半数を占めています。50~60代では今まで通りという人が6割以上。彼らはすでに満足したライフスタイルを送っているということなのかもしれません。

# SQ

さて、あなたは1年という期間を  
どう過ごしますか？

3000万円というお金をどう使いますか？

■1年の過ごし方として出されたものを分類してみました。圧倒的に多いのは「旅行をする」というもの。また、いろいろなことに対してガマンをしないで何でもする、というプランも目立ちました。

●3000万は自分の夢につきこむ、できればそれをもとにFoundationをつくり、夢を追求してくれる人を養成したい(23歳男性) ●仕事を辞めて、田舎の両親のところの家を建て妻と子供達と自然の中で生きる喜びを感じながら一年を過ごしたいと思う(31歳男性) ●情熱の恋に生き、子供を生む。3000万円は養育費です(24歳女性) ●南イタリアの島に別荘をかりる。南仏にバカンス、モナコでカジノで遊ぶ。油絵を習って、別荘から見た美しい景色を絵にかき、母親に形見として送る(29歳女性) ●子供が中2と小5なので、中学卒業時、高校卒業時、成人の時、結婚の時、出産時等、区切り区切りの時用に手紙を書いていつでも側にいて見守っている主旨を残したい。3000万円は、夫と子供へ残したい(41歳女性) ●今まで知り合った人達をたずねる。皆が自分の今までのことをどう思っているかわかったら、なるべくよい印象のみを残すよう努力する(57歳女性)



「死後の世界」(56歳男性)

●1年間をどう過ごすか	n=349 n=133 n=216		
	(人) 全体	男性	女性
旅行	173	53	120
人との思い出づくり	109	39	70
ガマンしないでなんでも実行する	107	51	56
業績づくり、目標達成	42	19	23
今まで通り過ごす	33	15	18
身辺整理、死を迎える準備	28	7	21

●お金が余ったら	全体 男性 女性		
	家族に残す	57	30
どこかに寄付する	26	6	20

●最後の注文	n=348 n=131 n=217		
	(人) 全体	男性	女性
家族の幸せや健康	151	53	98
死に方への注文(楽に、美しく)	84	28	56
死後の世界、生まれ変わりへの注文	38	15	23
夢(一度したかったこと)の実現	33	12	21
世の中への注文(世界平和など)	20	11	9
死後の人の中で生き続けたい	12	1	11

\*OAを分類集計

# SQ

そして、あなたが最後に  
神様に出す「注文」とは？

(「生き続けたい」は駄目です)

●形を持った霊となって、この世にとどまり世界を見守る(39歳男性) ●苦しむような事なく極楽浄土を!!(61歳男性) ●心やさしい年若い女性と思いきりSEXしてみたい(62歳男性) ●好きな人(恋人)の私の記憶を全部消す(20歳女性) ●輪廻転生しないで昇天したい(46歳女性) ●出来るだけ死顔は美人に見える様に(47歳女性) ●側にいてくれる人に「ありがとう」と挨拶をする力だけはください(61歳女性)



「辞世の句」(33歳女性)

私はずっと前から、自分が死ぬ瞬間を決めています。本当にそうなると思っています。私ならこれしかありえないと...

あ———っ。  
たのしかっ。たっ。

# 生活太郎の一刀独断

●連載第二十三回

## 人は、所詮 生きたようにしか 死ねない



指がまた動く。眠りがちになった義母の指先は、何かをしているように思える。目覚めているときに、夢の話をした。眠るたびに、花を活けているのだという。「華展の準備にいかなければ」と看護婦に突然言ったこともある。華道教授としてのアイデンティティを最後まで持っていた人だった。

若いころに本願寺で「OL」をやったせいか、恬淡としていた。延命の行為は、拒んでほしいと言っていた。ただ、現実の問題となると、境界線を引くのは、なかなか難しいことも分かった。痛みをとるのはまだしも、高濃度の栄養を点滴することは、不自然ではないのか。酸素の吸入はどうなのか。医者向けのターミナルケアの本にも、迷いが出ている。経口的に栄養が取れなくても、少なくとも数ヶ月は維持できる。それでも、点滴をしないことは許されるだろうかとの自問である。海外の多くのホスピスでは、中心静脈からの点滴などはしないという。

輸血を拒否する宗教がある。奇異に思っていたが、要は、程度の問題なのだを知った。数週間と思われる段階で、高濃度栄養を止めることは認められても、数ヶ月前だと躊躇する。機械式のレスピレーターは避けてもらっても、酸素を鼻から送るのは構わないというのか。ラストアイデンティティを考えると、その一つ一つが重い選択となる。

飛行機事故の実況映像を病室で、一緒に見ていた。「ああいう風に、事故でっていうの、うらやましいわ」と義母は言った。「でもね、あの場合、置いていかれた方は、心の整理が大変ですよ。ゆっくりお別れができるのは、いいことです」と返した。「まあねえ、そういうこともあるわね。でも、当人はきついよ」生前に本人が受け取る生命保険のCMが流れる時代だ。最後のありかたを、自分で決める。それは確かな流れだろう。ただし、人はそれほど賢いのかという疑問は、依然として残るのだが。

### ●生活花子のみんな、もう読んだ？

- もっと知りたい人に：今回のテーマの資料があります。(1)「死」に関連して知りたいと思うことや死生観(2)もし「死に方」を選べるとしたら、いつ、どこで、どのように死にたいか(3)絶対避けたい死に方(4)理想とする「人生最後のシーン」の絵(5)「死後の世界」の絵(6)希望する「お葬式のシーン」の絵(7)自分が残したい「辞世の句」(8)自分が残したい「遺言状」
- ご覧になりたい方は、内線6450へ。
- 今回は、メメント・モリ(死を忘れるな)の特集でした。